

第 2 回 千歳市かわまちづくり検討会資料

「千歳市かわまちづくり」に関するアンケートの自由意見

ご意見	施策分類
<p>地域活性化を考える際に「地元利用」と「観光利用」のどちらも視野に入れた整備が望ましいと考えており、その整備が行われることで発展性の高い賑わい空間の創出ができるかどうかと考えました。その結果道の駅裏に地元や近隣の子どもが利用できる環境教育フィールドでありカヌー等のアクティビティ出艇場所等に利用できる整備を行うことが千歳らしいかわまちづくりにつながるのではと考えています。</p>	B、E
<p>案内看板等に各種情報提供（施設紹介、アクセス、外国語表示等）が出来るようなQRコードの掲示を提案します。読み取り先のサーバー情報を管理するだけで、提供する情報の変更があっても簡単に修正が可能</p>	M
<ul style="list-style-type: none"> ・安全かつ回遊性があることで、グリーンベルトと道の駅が繋がり、日常使いと観光客が散策できるルートが確保できる。（街灯の整備やベンチの設置も含まれる） ・全体を通して、自然エネルギーの活用やごみを減らす工夫がされている整備になると良いと思う。（太陽光発電の街灯、トイレ、給水スポットなど） ・キッチンカーのみでは集客が見込めないため、アクティビティやイベントと合わせて設置するなど、ハードとソフトを掛け合わせた整備が必要がある。（冬であれば、小樽のゆきあかりの路のように遊歩道を活用するなど） 	J、L、K
<p>検討会での意見にもあったように、周辺住民の理解、自然環境保全（治水・植生物）への配慮しつつ、市民・来訪者が活用できる計画となることが望ましい（が、誰もが同じ方向性となることは大変難しいことです）。</p> <p>また、市民対象なのか観光なのかターゲットに関するご意見もありました。最初から観光ターゲットで考えると、先述の住民理解や環境保全など課題・懸念が生じやすいのかもしれませんが、観光は、なにも道外・海外からの来訪者だけに限らず、近郊の市外地からの来訪も観光客なので、市民や近郊の方々が集うようになれば、外部からの来訪・立ち寄りも付いてくるのではないかなと思います。（結果、かわまちづくりの「地域活性・観光振興などを目的」につながる）</p> <p>ウォーキングやサイクリングにも適した周遊性の向上や照明も確かに必要であるが、継続した維持管理が大切と考えます。歩いて又は自転車に乗って、気持ちが良い、楽しくなる（ワクワク）景観ができると利用したくなるものと思います。</p> <p>国道から清水町、清水町親水公園は近くに商業エリアがあり、特区により営業可能なエリアとなれば商業エリアとのつながりも期待できないでしょうか。既設の民間の飲食店はあくまで民間なので立ち入ることは難しいでしょうが、川辺も含めた街エリアの全体像もイメージしたうえでの場所選定や計画となると街としての魅力が増すのではないのでしょうか。</p> <p>その他に商業的な特区として考えられる先ではサーモンパークと考えます。</p> <p>河川敷でのバーベキューやキャンプは、フリーエリアとしてであれば、ゴミや騒音などマナー等の問題から維持管理が難しいのではないかと考えます。（エリアを決め、管理者がいて有料で管理に充てられるのであれば別ですが）</p> <p>カヌーやボートの発着場については、川利用の促進につながるとは考えますが、現在、よく利用されているスタート地点がウサクマイ遺跡付が多く、そこからの連動（クルージング</p>	

全体の繋がりで、どのあたりが有効か(多い必要はないですが、1箇所ともならないかもしれませんが)一連の流れで考えてみる必要があるのかなと考えました。

また残念ながら現代の特に北海道は車社会であり、川辺を楽しみたくても付近に駐車できるスペースが無いと、本当に川の近隣に住む方しか訪れないといったこともあると思います。

集いやすい環境も併せて考える必要があるのではないのでしょうか。

千歳川を利活用した地域活性化や賑わいづくりを考える上でまず大切なのは、しっかり「集中と選択」を図ることだと思います。アクティビティやレジャー要素も大切ですが、まず千歳川周辺を日常的に回遊し、このエリアを愛する市民を醸成することが第一です。親水護岸の整備やキッチンカーの導入等は、むしろ千歳川利用者の増加と導線を確認してからの方が無難と考えます。今般、施策イメージに挙げられた【A】～【M】についても、まず市民に理解を得られやすく、親和性の高いもの、千歳川の利用促進に繋がるメニューから検討すべきではないでしょうか。今後、観光振興に資する施策を推進する上でも、まず市民の理解と協力は不可欠です。

この点について、【D】の「バーベキューやキャンプエリアの整備」は理解をし難い施策です。これまでも河川敷や街区公園内で無断でバーベキューを行い、ごみや炭、花火の燃え殻等を放置して帰るマナーの悪い利用者が多数報告されています。また、【I】の水辺への昇降場所の整備についても、周辺の道路に長時間不法駐車を招く恐れがあり、慎重に検討していただきたいところです。

個人の意見として推奨したいのは、市民の健康増進を兼ねて千歳川遊歩道とグリーンベルトを回遊する散策、ウォーキング、ランニングのコースを設定することです。

ハード事業としては、グリーンベルト清水町側の親水公園と東雲町側のポエム広場にかけて人道橋を架け、千歳中学校から師団通りの旅人の森まで南北方向に往来できる導線をつくるのが、利活用を促進する効果が一番高いと思います。これに、千歳川遊歩道を使った東西方向のルートと併せて、2～10km程度の散策コースが設定できれば、日常的に利用する市民は間違いなく増え、将来的には観光客の導線にもなります。その前提から言えば、管理用通路の分断解消が最も優先すべき施策と思われれます。また、施策のイメージにはありませんが、高齢者や障がい者の利用を考えると、中間地点にあたる下流右岸のハルニレ公園、下流左岸の末広東公園等に休憩スペースを設けることも是非検討していただきたいと思います。

施設やルートの清掃、維持管理に関する市民協働ですが、沿線の町内会はどこも古い住宅地で、住民の高齢化と町内会の衰退がすでに顕著です。「清流と緑を守る市民の会」などを母体として、千歳川を愛する利用者を中心とした管理ボランティア組織を同時期に立ち上げることを提案します。

D、I、J、K

・現在、「エリアマネジメント推進本部会議」において、まちの賑わい創出のため、グリーンベルトをランドマークエリアと位置づけ、千歳川も含めた空間資源を活用した良好な民間投資や開発事業の誘導を目指しているが、その中で、エリアマネジメントを効果的に稼働させるための組織（エリマネ団体）により活動することが議論されていることから、「かわまちづくり」においても、将来的にその組織により運営されることにより、グリーンベルトと一体となった整備や活動が行えると考えます。

・グリーンベルトは、千歳川により分断されていることから、親水公園と対岸エリアを繋ぐ「橋（人道橋）」を架け、対岸エリアや庁舎側エリアと一体となった利用を検討できないか。

JR より上流側を商業的な賑わい創出を中心としたエリア、下流側を環境学習・体験を中心としたエリアと目的分けし、それらを繋ぐ周遊性の向上やカヌー、サイクリング利用というような、ざっくりとした分け方をしてそれぞれに合わせた整備をしていくというとする、方向性がある程度見えて良いような気がしました。

賑わい創出とはいえ、最初からあまり外部からの利用を意識しすぎることなく、基本は地元市民（学校や幼稚園・保育園なども含めて）が利用してくれることを第一とすべきではないかと思います。目に見える目的を持った地域の利用者の需要を満たすことで大切にしようという意識が生まれ、多くの方に注目され支持されるようになり、そこに結果として様々なタイプの観光客（インバウンド含めアウトドア、飲食目的など）が加わってくる構図にすることが理想かと考えています。

○A、B、C、Dについては、青葉公園、サーモンパーク、名水ふれあい公園と比較検討した上で、この場所に新たにそれらが必要だろうか？と考えました。その中で(D)バーベキューの優先順位を上げたのは、事業者が「手ぶらでBBQ」プランを提供することにより、観光客の興味を惹きつけられるかもしれないと思ったためです。

○千歳市民と道内観光客は車で、道外・海外観光客や出張者は主に徒歩で移動すると思います。各ターゲットの交通手段を前提に動線を考えていきたいと思っています。

○グリーンベルト上を、駅前通り～千歳川河岸まで誘導する仕組みが必要だと思っています。駐車場上のコンクリ広場で動線が切られてしまってる感があるため、この場所の再整備や活用法方も同時進行で話し合えたらと思います。

○かつては物珍しかったキッチンカーですが、今では人を集めることが難しくなっていると感じています。コーヒーが200円台で飲めるカフェカーはあったら良いなと思いますが、フードについては近場の地元店で紙包装によるテイクアウトメニューを用意してもらった方が良いかもしれません。もしもお店を構えるなら、キッチンカーよりも、プレハブ等で屋台村のようなものをがっちり組んだ方が良いような気がします。

○改めて該当エリアの川岸の様子を確認し、住宅が同じ高さですぐ脇に並ぶため、「自然に囲まれてゆったりと川岸で過ごす」ことが難しいと感じました。高水敷を作ること、より川に近く、より人目につかずに過ごせると思います。その際、直接腰を下ろしたり寝転んだりできるよう下が芝生になっていると嬉しいです。

○サーモンパークの下流側の、毎年カモが来るあたりで、タニシを集めて遊んだことがあります。こうした生き物もいるので、子供が遊べる河岸があると良いですね。大人もそこで足を浸して涼むなどできると楽しそうです。ただ、川が深く流れた早いので、親御さんが安心して遊ばせることができるようそれなりに大きな「川の溜まり場」を作らないと難しいように思います。これと芝生の高水敷を同時に実現できれば、そこに人が集まってくれるかもしれません。

○パンデミック中に起こったアウトドアブームとサステナビリティの意識の高まりにより、サイクリングは世界的に人気が高まっています。そのため、サーモンパークや千歳駅周辺にサイクルステーションを作ること、河川敷の道が途切れてしまう部分のルートを正式に決定し案内標識を作ること（特に新橋、仲の橋、36号線）ができれば嬉しいです。将来的には札幌～北広島～恵庭のサイクリングロードとも繋がってくれたらと願っています。支笏

D、G、M

湖のサイクルバスはとても良いアイデアだと思います。その際は、往路でバスに乗り、復路（下り）は乗って帰るのが良さそうです。

◎道外はもちろん、道内の方でも千歳川のきれいさ驚かれることがあるので、千歳川そのものを売りにしたプログラムがあればと思っています。たとえばカヌーを、環境学習の要素を含めたプログラムにすると大人も楽しめそうだと思います。松澤さんは釣り糸等のゴミを回収しながら千歳川を下るプログラムを実施したことがあると人づてに聞いたことがあるので、そうしたことも実施するとより学びの多い体験になると思います。

◎「ゴミを捨てないでください」の看板だけでなく、「ゴミ拾いにご協力ください」の看板も設置すると良いと思います。訪問客も景観保護・自然保護に巻き込める仕組みがあればと思います。

検討会でも申し上げましたが、市街の中心を流れる千歳川が国内有数の清流としての水質、自然環境を保っていることは国内でも稀有なたいへんに貴重なことであり、千歳川は千歳市民の宝だと思います。

私は大都市の生活者が千歳川を見れば、普段見慣れた川（神田川、多摩川、淀川など）との違いを間違いなく感じる筈で、多くの人が感動してくれるのではないかと考えています。千歳川には高知の四万十川にも負けないポテンシャルがあるとも思っています。

私は千歳川の「水」を活用してかわまちづくりができないかと考えます。「水のきれいな千歳川、千歳市」を徹底してアピールし、人を呼び込むのです。

きれいな水が当たり前でない地域は国内にも海外にもたくさんあります。千歳川の「水」は国内の大都市に住む人には魅力的だと思います。ましてや常にミネラルウォーターを飲む海外の人々からすれば更に魅力的に映るはずです。

かわまちづくりの狙いというか対象をしっかりと定める必要がありますが、もし市外からの旅行者、とくに本州や海外の旅行者もターゲットにするのであれば、千歳川の水質日本一（有数）の水を軸に環境に負荷をあまりかけない自然体験のアクティビティ（オオワシ、オジロワシ観察、サケ、サクラマス観察、森林散策、溪流釣りなど）とあわせて旅行者を市街にも呼び込めるような気がします。

きれいな水に憧れる人は自然環境の保全などにも意識の高い傾向があるような気もしますし、海外からの旅行者であれば富裕層も多いのではないのでしょうか。

素人なのでハード面でどういったものの整備がかわまちづくりに有効なのか、市街の活性化に有効なのか判断しかねますが、千歳川の環境の保全を前提に整備をおこなうことが肝要であると思います。

テラス、遊び場、カヌーコース、街頭の順で整備できたらと思います。清掃は定期的に人が集まるもしくは毎日だれかはきれいにしている状態もつくれると思います。気になるところは、公園周りの住人の方に理解していただけるかです。不法な駐車、ゴミ、騒音など、リバーシティの時も事前に町内会に話したうえで毎回一軒一軒まわっていました。